

派遣先所属 福島県商工労働部雇用労政課

氏 名 遠藤 有矢 (えんどう ゆうや)

派遣期間 令和3年4月1日～令和5年3月31日 (昨年度から継続)

1 派遣先業務の内容及び現況

派遣先の雇用労政課は、ワークライフバランスの推進や県内企業への就職支援、労働相談など、雇用と労働関係の幅広い業務を行う部署です。震災復興に係る業務を支援するため、私のほか、東京都からも職員が派遣されています。

そんな雇用労政課で、私が現在担当しているのは「ふくしま産業復興雇用支援助成金 (以下、「助成金」)」に係る業務です。

この助成金は、東日本大震災・原子力災害 (以下、「震災」) からの復興を、雇用の面から支援するための制度です。国が制度設計や財政面の基礎部分を担当し、県が実際の事務手続きを行うという役割分担で実施されています。助成金には、2つのメニューがあります。ひとつは「雇入費」です。震災当時、被災3県 (福島、宮城、岩手) に居住または就労していて現在失業中の方を雇用した場合に、対象の労働者1人当たり3年間で最大225万円、1事業所につき最大2,000万円を助成するものです。もうひとつは「住宅支援費」です。雇用確保のため住宅手当を拡充させたり、住宅を借り上げたりした場合に、その経費の一部を、1事業所につき最大720万円助成するものです。どちらのメニューも助成は事業所に対して行います。

助成金運用のため、私と、福島県職員1名、東京都職員1名、専門員3名の計6名による専門チームが雇用労政課内に設置され、助成金に関する相談、申請の受付、書類審査、現地調査を日々行っています。

助成金の制度には複雑な部分があるため、多くの相談が寄せられます。相談者によって状況が異なるため、お話をよく伺い、細やかに対応することが求められます。私自身も当初は制度がなかなか理解できず、また、労働基準法などの知識も必要になるため、勉強しなければならないことが多く四苦八苦しました。雇用労政課での勤務も2年目となり、多少はスムーズに対応できるようになってきたかなと思っています。

現地調査では、福島県全域の事業所を訪問しています。3年間の助成期間が終了した事業所を対象に、書類等を再確認するために行うもので、事業所の方と直接お話ができる良い機会です。震災当時の苦労についても話が及ぶことがあり、「事務所の1階部分が潰れたが従業員全員が2階にいたので奇跡的に助かった」、「風評被害の影響は大きかった」、「原発周辺地域で復旧工事を行うため防護服を着て働いた」など、貴重なお話を伺いました。また、「支給額が大きくありがたかった」といった言葉を聞くこともあり、助成金の効果を実感することもあります。

震災直後と比べると、申請件数は減少傾向ですが、それでも昨年度は年間262件の申請があり、依然として助成金による支援の必要性はあるものと考えられます。

2 福島県内被災地の復興状況

震災の強震や津波による被災地は、どこが被害を受けたのか分からないほど復旧が進み、生活に不便するようなこともありません。また、原子力災害からの復興も、ゆっくりではありますが確実に進んでいます。避難指示等が出されている区域は、一時、県の面積の約12%を占めていましたが、現在は、約2.4%にまで減少しました。

いまだに居住が制限されている「帰還困難区域」も、一部が「特定復興再生拠点区域」として、除染やインフラ復旧が進められています。令和4年度は、葛尾村、大熊町、双葉町の「特定復興再生拠点区域」で、避難指示が解除されました。解除後の様子を見に行くと、腐朽してしまった家屋の解体が進んでいたり、水道管敷設工事が行われていたり、ようやく復興がスタートした様子を見ることができました。

しかし、避難指示が解除されればすぐに震災前の賑わいが戻るのかというと、それはなかなか難しい状況です。住む場所、働く場所、医療機関の確保など、課題は山積みです。駅前でも人はまばらで、更地が目立ちます。復興庁などが実施した、「令和3年度福島県の原子力災害による避難指示区域等の住民意向調査」によれば、「(震災前の居住地に)戻らない」と回答した住民が6割を超える被災自治体もあり、復興の課題のひとつとなっています。また、原発の廃炉作業や、「県外処分」が法律で定められた除染土の最終処分など、達成には数十年という歳月がかかる課題も残されています。

原子力災害は、言うなればまだ“災害の途中”であると感じます。福島県の復興に関する明るい話題の一方には、今も克服に向けて挑戦が続く、難しい課題が残されていることの再認識が必要だと感じています。

3 派遣中に感じたこと

昨年度中に、福島県59市町村を全て訪れてみました。福島県の面積は、1都3県の合計面積よりも広く、ひとつの地域にいただけでは、なかなか県全体を知ることはできないと感じ、休日にあちこちでかけました。ガイドブックに掲載されるような観光スポットや温泉はもちろん、豊富でおいしい農林水産物や、日本酒、工芸品、ご当地グルメなど、どこの地域も興味を惹かれるものでいっぱいでした。また、震災を乗り越え伝統文化を継承していこうと奮闘されている方がいたり、「震災で落ち込んだ地域を盛り上げよう」と開発された商品があったりと、復興への熱い思いも満ちていて、「福島パワー」を感じました。私の派遣予定期間も残り少なくなってきましたが(R4.11.24執筆時点)、パワー溢れる福島県を、引き続き支援して参ります。

さて、令和4年3月16日午後11時36分。地鳴りが聞こえるやいなや、とても激しい揺れに襲われました。私が住んでいる地域では震度6弱を観測しました。その2分前の前震で目が覚めて、ラジオをつけるところだった私は、布団の上でなすすべもなく、ただ揺られていました。福島県は令和3年2月の地震に続き、2年連続で大地震に見舞われました。「雪の当たり年」と言われた大雪の冬を乗り切った矢先の出来事で、

試練が続きました。しかし、震災以降、何度も大きな地震を経験している福島県民の方々は、日常生活の回復に向けて冷静に対処されていて、学ぶものが多くあると感じました。地震の影響で、道路や橋がガタガタになったり、家屋が損傷したり、新幹線の架線柱が傾いたり、多くの被害が出ましたが、それらが日を追うごとに復旧していく姿には感動しました。私も何かしなければと思い、休日を利用して、地域の災害ボランティアに参加しました。社会福祉協議会の方や、愛知県を拠点とする災害ボランティア団体の方々と共に、高齢世帯のお宅を訪問して、倒れたままの家具を起こしたり、民家の屋根に上って瓦屋根の修繕をお手伝いしたりと、大変貴重な経験をすることができました。帰任後も、いざというときは経験をいかしていければと思います。



(左)

【 災害ボランティア活動中の筆者 】

屋根の応急修繕をしているところです。活動をしながら、安全確保の方法から道具の使い方まで様々なことを学びました。

(右)

【 福島盆地の桃（あかつき） 】

直売所で手に入るいわゆる「規格外品」です。1箱12個入りで1,000円でした。



【 三春滝ザクラ 】

国の天然記念物に指定されている大きな桜で、全国から見物客が訪れます。樹齢は1000年を超えているそうです。



【 裏磐梯から望む磐梯山 】

明治時代の大噴火で誕生した湖沼群と荒々しい山肌からは大自然のエネルギーを感じます。

以上